

# 10 甲 殻 類

哺乳類  
鳥 類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝 類  
甲殻類  
その他動物

## 1. 生息状況の概略

県内における十脚甲殻類は、河川上流域から湿地、湖沼、海域にかけて広く分布しており、特に海域での多様性が高い。本県は南北に長い海岸線を持ち、その気候も地域間で異なるため、県南部や黒潮の影響を強く受ける沿岸域では南方系種の生息も確認されている（上野，2005，2007，2009）。

短尾類については、1930年代に刊行されたStudies on the Crabs of JapanI~IV (Sakai, 1936, 1937, 1938, 1939) から約120種が県内で記録されている。その後、「三重県産カニ類総目録および追加」（田中，1962，1964，1966，1973，1978）が刊行され、これによると380種が記録されている。1980年代には短尾類分布調査研究会（1983）により、過去の文献と未発表資料をもとに「伊勢湾および熊野灘北中部海域の短尾類相」がまとめられ、447種の短尾類が記録された。現在では、その後の調査で確認された種も含めると500種近くが県内に生息するものと推定される。2000年以降は短尾類の地域的な調査報告はみられないものの、県内全域にわたる生息分布をまとめたものは少なく、近年の生息状況については不明な点が多い。なお、異尾類については、佐波（1981，1983）により92種が、また、佐波・富田（1984）により102種が報告されている。長尾類については、県内における生息状況を記録した資料は見られていない。

## 2. 調査内容

三重県レッドデータブック2005（以下、三重県RDB2005）掲載種を含めた希少甲殻類の生息状況について、文献・標本調査および現地での採集・目視調査を実施し、候補種を選定した。文献・標本調査では、三重県RDB2005以降に発行された文献目録の収集や標本の産地確認を行い、現地調査では、伊勢湾および熊野灘流入河川の下流域、河口・内湾干潟、その周辺水域を中心に定性的な分布調査を実施した。そのため、短尾類については干潟や河口域を生息地とする種が大部分を占める結果となっている。個体の採集は巣穴掘削や素手の他、手網による底引き等で行った。三重県RDB2005のカテゴリーランクが高い種については、種保護上の観点から採集は極力避け、目視による個体数カウントを実施した。なお、調査は主に日中に実施したが、三重県RDB2005に掲載される種の中に夜行性種が含まれていたため、随時、夜間調査も実施した。

## 3. 絶滅危惧種の概要

今回の改訂で絶滅危惧IB類（EN）2種、絶滅危惧II類（VU）3種、準絶滅危惧（NT）10種、情報不足（DD）11種の計26種を選定した。このうち約半数を占める12種が三重県RDB2005以降に新たに県内で確認され、リストに追加された。ハクセンシオマネキについては、新たに生息が確認された地点や開発等により一定期間生息が確認されなかった地点で再び確認されるなど分布を拡大しており、各地点における生息個体数も増加傾向にある。開発行為は一時的に本種の生息に大きな影響を与えるが、工事完了後の経年変化により、本種の生息可能な環境条件が整ったことが原因の一つとして考えられる。一方、シオマネキは生息個体数が少ない状態が現在も続いており、今後も周辺水域の環境変化には注意が必要である。カワスナガニとオサガニについては、その後の調査で新たな生息地が複数確認され、安定した個体群が見られる地域が確認されたことから、それぞれVU、NTへとランクが下がった。アリアケモドキについては、三重県RDB2005でVUとされていたが、2007年に新種として報告されたクマノエミオスジガニと生息環境や外部形態が近似しているため、混同されていた可能性があり近年、生息状況を評価する情報が少ないことからDDへと変更された。

今回の改訂で新たに追加した選定種はいずれも生息個体数が少なく、河川改修等による生息地の消失が危惧されている状況である。また、生態について不明な点が多い種も含まれているため、実質的な保全策を講じることが困難であり、現存の環境を保全することが重要と考えられる。また、種の保全策に反映する基礎情報を得るためにも継続した調査研究を行う必要があると考えられる。

淡水性長尾類の中には、河川上流域の清浄な水環境に生息する種も存在するが、開発等により生息環境が消失あるいは悪化している場所もあり、その生息数は減少しているものと考えられる。

## 文 献

岸野 底・木邑聡美・唐澤恒夫・國里美樹・酒野光世・野元彰人・和田恵次. 2010. 汽水性希少カニ類クマノエミオスジガニ *Deiratonotus kaoriae* とアリアケモドキ *D. cristatus* (ムツハアリアケガニ科) の三重県櫛田川河口域における出現状況. 日本ベントス学会誌, (65): 6-9.

木邑聡美・野元彰人・岸野 底. 2009. 三重県赤羽川河口域で採集されたカワスナガニ. 南紀生物, 51(1): 33-34.

三重県生物調査委員会. 1951. 三重県産生物目録 (三重県生物調査委員会 編), pp. 83-85. 三重県生物

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
EW  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

調査会, 津.  
野元彰人・岸野底・木邑聡美. 2008. 既産地以外で初めて記録された汽水性希少カニ類クマノエミオスジガニ (ムツハアリアケガニ科). 南紀生物, (50): 98-102.  
佐波征機. 1981. 三重県沿岸産異尾類目録 (I). 三重生物 29: 24-26.  
佐波征機. 1983. 三重県沿岸産異尾類目録 (II). 三重生物 33: 29-34.  
佐波征機・富田靖男. 1984. 伊勢湾および熊野灘北中部海域の異尾類相. 三重県立博物館研究報告. 自然科学第6号: 1-38.  
Sakai, T. 1936. Studies on the Crabs of Japan. I. Dromiacea. Sci. Rep. Tokyo BunrikaDaigaku, sect. B, vol. 2, Suppl. no. 1: 1-66, pls.1-9.  
Sakai, T. 1937. Ditto. II. Oxystomata. Ibid., 3(2): 67-192, figs 45, pls. 10-19.  
Sakai, T. 1938. Ditto. III. Brachygnatha, Oxyrhyncha. Yokendo, Tokyo. pp. 193-364, figs. 55, pls 20-41.  
Sakai, T. 1939. Ditto. IV. Brachygnatha, Brachyrhyncha. idid. pp. 365-741, pls. 42-111.  
締次美穂. 2006. 四日市におけるハクセンシオマネキの記録. 自然誌だより. (67): 2-3.  
締次美穂. 2007. 田中川干潟のハクセンシオマネキの記録. 自然誌だより. (71): 2-5.  
締次美穂. 2014. 三重県におけるカワスナガニの記録. 南紀生物, 56(1): 53-55.  
田中信一. 1962. 三重県産カニ類総目録. 三重生物 12: 1-35.  
田中信一. 1964. 三重県産カニ類総目録追加. 三重生物 14: 35-44.  
田中信一. 1966. 三重県産カニ類総目録 (その3). 三重生物 16: 53-60.  
田中信一. 1973. 三重県産カニ類総目録 (その4). 三重生物 23: 83-94.  
田中信一. 1978. 三重県産カニ類相目録 (その5). 三重生物 27: 3-9.  
短尾類分布調査研究会. 1983. 伊勢湾および熊野灘北中部海域の短尾類相. 三重県立博物館研究報告自然科学第5号: 1-78.  
上野淳一. 2005. 県内の沿岸域における南方系カニ類の北上について. 自然誌だより, (65): 3-4.  
上野淳一. 2007. 三重県未記録種ヒメヤマトオサガニ *Macrophthalmus banzai* ならびに熊野灘沿岸河口域に生息するカニ類数種. 三重動物学会会報, (30): 4-5.  
上野淳一. 2009. ヒメヤマトオサガニ *Macrophthalmus banzai* の分布と好適環境条件. 三重動物学会会報, (32): 4-10.  
(上野淳一)

### 除外種

「三重県レッドデータブック2005 動物」掲載種のうち, 今回の改訂により低懸念 (LC) と判定された種とその理由は以下のとおりである.

(表10-1) 改訂により低懸念 (LC) となった種

No.	科名	和名	改訂前 県ランク	除外理由
1	モクズガニ	ハマガニ	DD	夜間調査の実施で河口域のヨシ原を中心に複数の生息地が確認されたため.
2	モクズガニ	タイワンヒライソモドキ	NT	調査が進み熊野灘沿岸に広く分布することが明らかになったため.

### 甲殻類レッドリスト

#### 絶滅危惧IB類 (EN)

科名	和名	学名	環境省	掲載P.
オサガニ	ヒメヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus banzai</i>		388
スナガニ	シオマネキ	<i>Uca arcuata</i>	VU	388

#### 絶滅危惧II類 (VU)

科名	和名	学名	環境省	掲載P.
モクズガニ	ウモレマメガニ	<i>Pseudopinnixa carinata</i>		389
ムツハアリアケガニ	クマノエミオスジガニ	<i>Deiratonotus kaoriae</i>		389
スナガニ	ハクセンシオマネキ	<i>Uca lactea</i>	VU	390

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

準絶滅危惧 (NT)

科名	和名	学名	環境省	掲載P.
ワタリガニ	ノコギリガザミ種群	<i>Scylla</i> spp.		390
ベンケイガニ	ウモレベンケイガニ	<i>Clistoeloma sinense</i>		391
ベンケイガニ	クシテガニ (オオユビアカベンケイガニ)	<i>Parasesarma affine</i>		391
モクズガニ	マメアカイソガニ	<i>Cyclograpsus pumilio</i>		391
モクズガニ	ヒメケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus sinensis</i>		392
モクズガニ	ヒメヒライソモドキ	<i>Ptychognathus capillidigitatus</i>		392
モクズガニ	トリウミアカイソモドキ	<i>Sestrostoma toriumii</i>		392
ムツハアリアケガニ	カワスナガニ	<i>Deiratonotus japonicus</i>	NT	393
オサガニ	チゴイワガニ	<i>Ilyograpsus nodulosus</i>		393
オサガニ	オサガニ	<i>Macrophthalmus abbreviatus</i>		393

情報不足 (DD)

科名	和名	学名	環境省	掲載P.
ヌマエビ	ヤマトヌマエビ	<i>Caridina japonica</i>		394
ヌマエビ	ヒメヌマエビ	<i>Caridina serratirostris</i>		394
ヌマエビ	トゲナシヌマエビ	<i>Caridina typus</i>		394
ヌマエビ	ミナミヌマエビ	<i>Neocaridina denticulata</i>		394
テナガエビ	ヒラテテナガエビ	<i>Macrobrachium japonicum</i>		394
カニダマシ	ウチノミカニダマシ	<i>Polyonyx utinomii</i>		394
ムツアシガニ	ムツアシガニ	<i>Hexapinus latipes</i>		394
モクズガニ	スネナガイソガニ	<i>Hemigrapsus longitarsis</i>		394
ムツハアリアケガニ	ムツハアリアケガニ	<i>Camptandrium sexdentatum</i>		394
ムツハアリアケガニ	アリアケモドキ	<i>Deiratonotus cristatus</i>		395
スナガニ	ミナミスナガニ	<i>Ocypode cordimana</i>		395

甲殻類レッドリスト 新旧対照表

本書に掲載された甲殻類レッドリスト (改訂後のカテゴリー) と「三重県レッドデータブック2005」に掲載した甲殻類レッドリスト (改訂前のカテゴリー) との新旧対照表は以下のとおりである。

		改訂前のカテゴリー						種数	
		EX	CR	EN	VU	NT	DD		リスト外
改訂後のカテゴリー	EX								0
	CR								0
	EN			シオマネキ				ヒメヤマトオサガニ	2
	VU			ハクセンシオマネキ				クマノエミオスジガニ ウモレマメガニ	3
	NT			カワスナガニ	オサガニ	ウモレベンケイガニ クシテガニ	ノコギリガザミ種群	マメアカイソガニ ヒメケフサイソガニ ヒメヒライソモドキ トリウミアカイソモドキ チゴイワガニ	10
	DD				アリアケモドキ		ヤマトヌマエビ ヒメヌマエビ トゲナシヌマエビ ミナミヌマエビ ヒラテテナガエビ ミナミスナガニ	ウチノミカニダマシ ムツアシガニ スネナガイソガニ ムツハアリアケガニ	11
	リスト外					タイワンヒライソモドキ	ハマガニ		2
種数	0	0	3	2	3	8	12		

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EW

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ヒメヤマトオサガニ

十脚目オサガニ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：—

*Macrophthalmus banzai* (Wada & Sakai, 1989)

旧県：—

**選定理由：** 既知の生息地点数は1地点、生息地面積は10 km<sup>2</sup>以下である。本種が生息する泥浜干潟の面積は極めて小さく、護岸工事や海岸開発等により底質環境が変化すると、小さな個体群を維持することが困難となることが考えられる。

**種の概要：** 甲長約12 mm、甲幅約19 mm。内湾、河川下流域の泥浜干潟に生息する。本種は近縁種のヤマトオサガニと外部形態や生息環境が近似しているため混同されていたが、形態や行動が異なる2型が存在することが後に報告され、その後、新たに別種として記載された。甲は四角く横に長い。外部形態はヤマトオサガニに似るが、小型で第三步脚の前節と腕節の内面前縁付近に毛が密生することで区別される。また、繁殖期に雄ははさみ脚を万歳するかのように振り上げるwaving行動をとる特徴がある。干潮時には巣穴から出て活動し、表泥の有機物を摂食する。

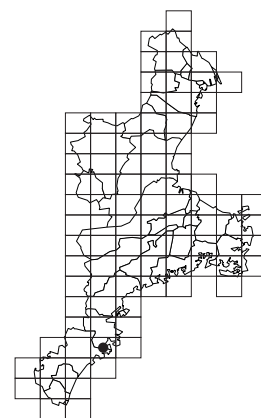
**分布：** 紀伊半島から沖縄県まで分布し、ヤマトオサガニに比べて南方に分布する。県内では尾鷲市の限られた河川下流域に分布する。

**現況・減少要因：** 本種は2007年に県内で初めて生息が確認された。発見当初は生息個体数が少ない上に局所的な分布であったため、偶発的な生息と考えられていたが、その後の調査で幼少から成熟個体が毎年確認されていることから、当水域で繁殖を繰り返しているものと考えられる。本種が生息する河川下流域は干潮時に広大な砂浜干潟が干出し、一部に泥浜干潟が僅かに存在する環境となっている。本種はこの泥浜干潟で見られるが、この場所は大雨や台風時に河川の増水によって地形や底質が変化しやすく脆弱である。特に河川の増水直後には、本種の生息地に上流域から流出した礫や砂泥が被覆し、一定期間生息が確認できないこともある。このように底質の変化に伴って本種の生息個体数は大きく変動し、年間を通して確認できる個体数の差は大きい。そのため、人為的な環境改変による影響だけでなく、台風や大雨等の自然災害が直接的な原因となって泥浜干潟が減少、消失する可能性がある。また、本種の生息地には同所的にヤマトオサガニが見られるが、両種が生息できる干潟面積が小さいため、エサや生息地の競合により本種が駆逐される可能性もある。

**保護対策：** 本種が生息する周辺の沿岸域では水質汚濁の懸念や水産資源保護のため、地域住民による土地造成の反対運動が行われている。生息に適する泥浜干潟の面積は小さく、周辺の環境改変の影響を受けやすいため、安定した泥浜干潟を維持するためにも現況を悪化させないことが重要である。既知の生息地周辺の河川下流域においても泥浜干潟が存在すれば本種が生息する可能性があるため、今後の調査で新たな分布が確認された場合には積極的な保護策が必要となる。

**文献：** 45, 46.

(上野淳一)



### シオマネキ

十脚目スナガニ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：VU

*Uca arcuata* (De Haan, 1835)

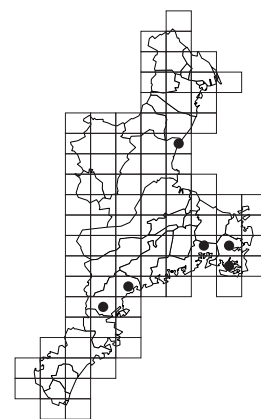
旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

**選定理由：** 既知の生息地点数は10か所以下、生息地面積は10 km<sup>2</sup>以下である。それぞれの生息地は離れており、生息個体数も極めて少ない。既知の生息地付近では概ね港湾改修は完了しているが、その後の環境改変や潮流の変化等により生息環境が悪化し、安定した生息が困難となる可能性がある。

**種の概要：** 甲長20 mm、甲幅35 mmほど、甲表面は平滑で、眼柄は細長い。雄は、左右のはさみ脚の大きさに著しい相違がみられ、大きい方のはさみ脚を一定のリズムで上下させ、雌に求愛する行動がみられる。雌のはさみ脚は左右相称で、ともに小さい。内湾や河川下流域の泥浜干潟で、穴を掘って生息することが多い。干潟表面の砂泥をはさみ脚ですくったり、つまんだりして口器に運び入れ、その中で餌になるものをろ過し、排出する摂餌方法をとる。

**分布：** 国内では伊豆半島から四国、九州、沖縄県までを分布域とする。県内では、津市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町に分布する。

**現況・減少要因：** 既知の生息地では現在、海岸開発等は行われていないが、過去10年以内に河川の護岸工事や水閘門改築等が行われ、本種の生息地を含む周辺水域の底質環境が変化している場所も存在する。このような底質環境が不安定な生息地では、本種の著しい個体数変動が見られ、毎年決まったエリアに出現しない場合もある。また、底質環境の変化に伴って、干潟に生息するカニ類の分布も変化し、本種の生息地で他種カニ類が高密度に分布する地点も確認されている。環境改変による潮流の変化は干潟を浸食する場合があり、これにより底質が礫化すると本種は生息が困難となる。既知の生息地





の他にも県内には本種が生息可能と思われる泥浜干潟が点在するが、生息を確認できた地点は僅かである。今後、海岸開発等によりこれらの干潟が消失すれば本種の小さな個体群がさらに減少すると考えられる。

**保護対策：** 雄の大きい方のはさみ脚は赤く、干潟に生息するカニ類の中でも良く目立つため、人目につきやすい。既知の生息地の中には遊歩道の設置によって本種の生息地にアプローチしやすくなった場所も存在することから、今後は人為的な採取圧力が懸念される。また、海岸開発等によって潮流が変化すると、本種の生息に最適な泥分の供給が絶たれ、底質が礫化する場合も考えられるため、今後、生息地周辺で工事が行われる際には、環境改変を控えた設計のもとに、施工するべきである。また、本種の生息地付近ではヨシやハマボウ等の塩生植物が見られることが多いため、これらを含めた保全も必要となる。既知の生息地における生息範囲は極めて狭いので、大規模な開発や改修を控え、水環境を整えることが、たいへん重要な保護対策となる。

**特記事項：** 三重県指定希少野生動物種。

**文 献：** 2.

(上野淳一)

<b>ウモレマメガニ</b> <i>Pseudopinnixa carinata</i> Ortmann, 1894	十脚目モクズガニ科	三重県：絶滅危惧II類 (VU) 旧県：—	環境省：—
---------------------------------------------------------------	-----------	--------------------------	-------

**選定理由：** 既知の生息地点数10以下。人為的な改変により生息地の環境が悪化している。

**種の概要：** 一属一種の希少種である。ニホンスナモグリ等の巣穴や砂中より見つかる。宿主への依存度等、生態は不明である。甲幅14 mm。

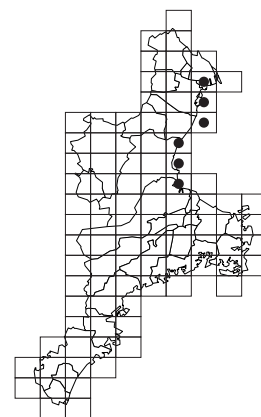
**分 布：** 日本固有種で、紀伊半島沿岸、瀬戸内海各地。県内では川越町から松阪市にかけての伊勢湾沿岸の砂質干潟で確認されている。

**現況・減少要因：** 分布域は広く多産地域もあるが、消波堤や石積堤の設置により環境が悪化し生息地は消失している。

**保護対策：** 既存の生息地を保全する必要がある。生態に不明な点が多いので今後の調査研究が望まれる。

**特記事項：** 海岸ベントスのレッドデータブック(日本ベントス学会編, 2012)では、絶滅危惧II類にランクされている。2012年カクレガニ科からモクズガニ科に変更された。

**文 献：** 4, 19.



(縮次美穂)

<b>クマノエミオスジガニ</b> <i>Deiratonotus kaoriae</i> (Miura, Kawane & Wada, 2007)	十脚目ムツハアリアケガニ科	三重県：絶滅危惧II類 (VU) 旧県：—	環境省：—
-------------------------------------------------------------------------------	---------------	--------------------------	-------

**選定理由：** 既知の生息地点数は5地点以下、生息地面積は10 km<sup>2</sup>以下である。生息環境が限定的であり、既知の生息地での生息個体数は極めて少ない。

**種の概要：** 甲幅は10 mm程度、甲表面の中央部には横方向に稜線が走り、腹部の一部が赤い。外部形態はアリアケモドキに似るが、甲の縦横比がほぼ等しく、甲表面や歩脚に縞模様があることなどで識別される。砂浜干潟の細流や干潮汀線付近の砂泥に埋る。2007年に新種として報告された。

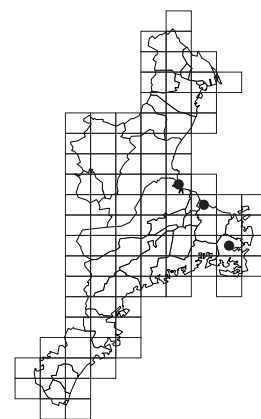
**分 布：** 三重県、宮崎県、長崎県に分布する。県内では松阪市、伊勢市、志摩市の河川下流域で確認されている。

**現況・減少要因：** 県内における既知の生息地での生息個体数は極めて少ない上に、埋没性の種であるため生息を確認することが容易ではない。河口域や内湾の環境改変が生息個体数の減少につながると考えられる。

**保護対策：** 生息地周辺の環境改変には注意が必要である。

**特記事項：** 三重県RDB2005の調査でアリアケモドキとして確認されていた種は、その特徴から本種と混同されていた可能性が高い。

**文 献：** 7, 20.



(上野淳一)

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EW
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

**ハクセンシオマネキ** 十脚目スナガニ科  
*Uca lactea* (De Haan, 1835)

三重県：絶滅危惧II類 (VU)  
 旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：VU

**選定理由：** 既知の生息地は100地点以下、生息地面積は40 km<sup>2</sup>以下である。干潟に生息する他種カニ類に比べて生息個体数は明らかに少なく、生息範囲も狭い。また、底質環境の変化に敏感であり、生息地の底質環境が大きく変化した場合、生息が困難となる場合がある。

**種の概要：** 甲長10 mm、甲幅20 mmほど、甲は横に長い四角形で、側縁はわずかに狭まる。はさみ脚は雌では左右ともに小型で相称、雄では大小著しい違いがみられる。大きいはさみ脚は白色、時に黄味を帯びる。干潮時には巣穴から出て、繁殖期の雄ははさみ脚を大きく振り動かす行動をとり、その動作はシオマネキよりも大きい。砂泥質の干潟に穴居し、泥表面の有機物を摂食する。成熟した雌では巣穴近くに円錐状の盛り土をつくる。晴れた気温の高い日の干潮時に活発に活動するが、巣穴に隠れていることも多い。

**分布：** 伊豆半島以南、伊勢湾、瀬戸内海、四国、九州にかけて生息する。県内での分布は、川越町から伊勢市にかけての伊勢湾沿岸部の河口域に点在するほか、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町でも生息が確認されている。

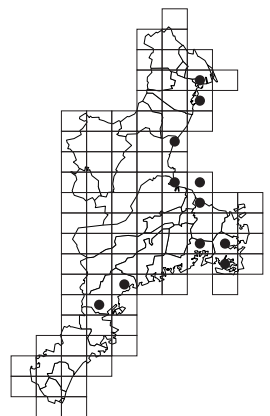
**現況・減少要因：** 県内における分布の中心は伊勢湾沿岸の河口域であるが、それぞれの生息地は離れており、生息地面積も小さい。本種は、波の穏やかな内湾あるいは河口干潟を主な生息地としており、干潮時の水はけが良いこと、底質が砂泥質であることなど、いくつかの条件が整っている必要がある。近年、既知の生息地での著しい個体数増加や新たな生息地も複数確認されており、100個体を超える集団が見られる地点も存在する。また、集団内で幼少個体も確認されていることから繁殖を繰り返しているものと考えられる。しかし今後、海岸開発や護岸工事による干潟の消失や底質環境の変化に伴って生息個体数が減少し、絶滅危惧のランクが上がる可能性がある。本種の生息可能な条件が整う干潟環境は限られており、地点によっては局所的に高密度で生息する場所も存在する。そのため、僅かな環境改変によって本種の生息環境が奪われ、個体数が激減する可能性もある。

**保護対策：** 現在、本種の生息地周辺では、大規模な海岸開発等は行われていないが、今後、生息地周辺で工事が行われる際には、周辺水域の底質変化を抑える工法を取り入れるなど、生息地に配慮した方法を検討する必要がある。また、生息地周辺だけでなく河川上流域での開発事業においても、下流域の自然環境に工事の影響が及ばないように工法を採用することが重要である。現在、本種を対象とした人為的な採取圧力は確認されていないが、生息環境を共有する他のカニ類に比べて色彩や求愛行動が目立つため、乱獲には十分注意する必要がある。

**特記事項：** 三重県指定希少野生動物種。

**文献：** 2. 3. 12. 21. 22. 25. 26. 31. 32. 33. 34. 37. 38. 39. 41.

(上野淳一)



**ノコギリガザミ種群** 十脚目ワタリガニ科  
*Squilla* spp.

三重県：準絶滅危惧 (NT)  
 旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

**選定理由：** 県内既知の生息地点数は10以下、生息地面積は10 km<sup>2</sup>以下である。既知の生息地では生息個体数が少ない。

**種の概要：** 甲幅は200 mm程度の大型種。甲表面は平滑で前側縁には棘状の突起が並び、はさみ脚は強力で遊泳が得意である。夜行性が強く、内湾や河口域に深い穴を掘って生息する。国内におけるノコギリガザミは形態的に異なる3種が確認されている。

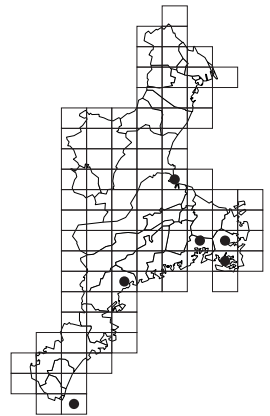
**分布：** 房総半島から四国、九州、沖縄諸島まで広く分布する。県内では津市、松阪市、南伊勢町、鳥羽市、志摩市、紀北町、紀宝町に分布する。

**現況・減少要因：** 既知の生息地では、干潟の潮間帯上部に本種の巣穴（大きいもので直径約20 cm）が点在する。日中は巣穴の中で身を潜めているが、夜間は巣穴から出て餌を求め動き回る様子を観察することができる。しかし、生息個体数は少なく、埋め立てや護岸工事の影響により本種の生息地が減少しているものと考えられる。また、食用として捕獲されている地域もある。

**保護対策：** 埋め立てや護岸工事等の直接的な生息環境の消失が最も危惧される。

**文献：** 12. 31. 32. 34. 37. 41.

(上野淳一)



## ウモレベンケイガニ

十脚目ベンケイガニ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

*Clistocoeloma sinense* (Shen, 1933)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

**選定理由：** 既知の生息地点数は100以下であり、およそ1000未満の亜個体群しかないといと推測される。干潟に生息することから開発による人為圧力が強い。

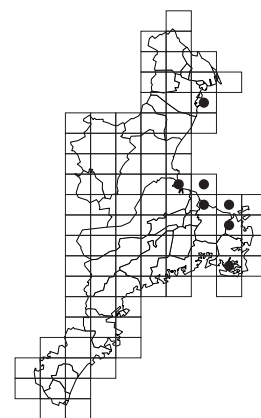
**種の概要：** 甲長12.6 mm, 甲幅16 mmほど。全身短毛の束に覆われる。額の前縁は中央でくぼみ、上縁は短毛が群生して稜線となる。雄のはさみ脚の指節の上縁には顆粒が列生する。干潟の潮間帯上部の転石下やヨシ原に生息する。

**分布：** 相模湾から高知県沿岸。県内では、四日市市、津市、松阪市、明和町、伊勢市、志摩市での記録がある。

**現況・減少要因：** 伊勢湾沿岸の田中川、雲出川、櫛田川、宮川などの大型河川の河口および英虞湾の湾奥部で確認され、潮間帯上部の転石下やヨシ原内の堆積物の下で見られる。ヨシ原の減少など、生息に適した場所が少なくなっていることが減少の要因と考えられる。

**保護対策：** 河川開発、海岸開発をする場合、河床、海岸のコンクリート化には注意が必要である。また、種の継続的な調査が必要である。

**文献：** 9. 10. 13. 17. 22. 23. 36. 37. 38. 39. 44.



(上野淳一)

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

## クシテガニ (オオユビアカベンケイガニ)

十脚目ベンケイガニ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

*Parasesarma affine* (De Haan, 1837)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

**選定理由：** 既知の生息地点数は10地点以下。いずれの生息地でも個体数は多くはない。海岸開発や埋め立てによりヨシ原が減少しており、周辺の生息地は乾燥化が進行している。

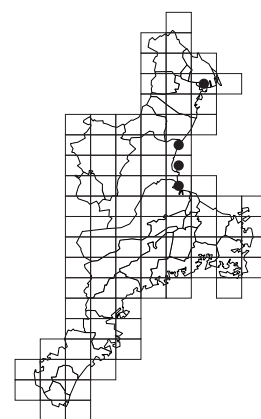
**種の概要：** 甲長21 mm, 甲幅28 mmほど。はさみ脚の指部は濃赤褐色で可動指上縁には6~8個の顆粒が見られる。甲は横長の四角形で紫がかった黄褐色を帯びる。

**分布：** 房総半島から九州にかけて分布する。県内では川越町および津市河芸町から松阪市にかけて分布し、河口付近の土手やヨシ原湿地上部に生息する。

**現況・減少要因：** 既知の生息地では河口域のヨシ原内や堆積物の下で生息を確認できるが、いずれの地点でも生息個体数は少ない。海岸開発や護岸工事によるヨシ原の直接的な消失やヨシ原の乾燥化で本種の生息環境が減少している。

**保護対策：** 本種の生息基盤となるヨシ原の環境変化を控え、植生を破壊しない保護策が必要である。

**文献：** 36. 37.



(上野淳一)

## マメアカイソガニ

十脚目モクズガニ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

*Cyclograpsus pumilio* Hangai & Fukui, 2009

旧県：—

**選定理由：** 転石海岸の人工化が進み生息地が減少している。

**種の概要：** 外洋に面した転石海岸の満潮線の礫中に生息する。アカイソガニに酷似するが、甲幅10 mmと小型で、主要な餌は打ち上げ海藻である。またアカイソガニの歩脚は、長節・腕節は平滑無毛で、前節後縁と指節にごく短く毛が生えるのに対し、本種の雄では第1~3歩脚の長節・前節・指節の後縁に長い毛が列生し、雌では歩脚後縁に短い毛が列生する。

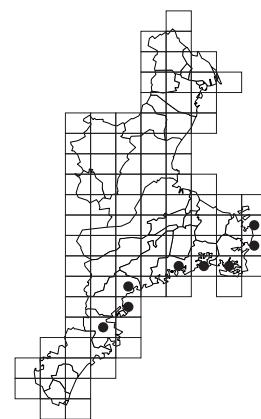
**分布：** 国内では福井、京都、兵庫、島根、和歌山、大阪、徳島、高知、愛媛の各府県、県内では鳥羽市から尾鷲市にかけての転石海岸で確認される。

**現況・減少要因：** 海水浴場等が造られ人工海岸が目立つ。本種は人工海岸でも確認されているが生息数は極めて少ない。

**保護対策：** 現存の生息地の環境を保全することである。

**特記事項：** 2009年に新種記載された。本種の生息する転石海岸には海岸生物も豊かである。

**文献：** 28.



(縮次美穂)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EW

EW

CR

EN

VU

NT

DD

### ヒメケフサイソガニ

十脚目モクズガニ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

*Hemigrapsus sinensis* Rathbun, 1929

旧県：

**選定理由：** 既知の生息地点数は10以下。生息環境の基盤が脆く分布域は広いが個体数が少ない。

**種の概要：** 潮下帯中部から下部のカキ礁に生息する。同所的に見られるタカノケフサイソガニやケフサイソガニと異なり動作が緩慢である。また両種は雌の鋏脚に毛が無いのに対し、本種は雌の掌部外面の半分以上が軟毛で覆われる。甲幅11 mm。

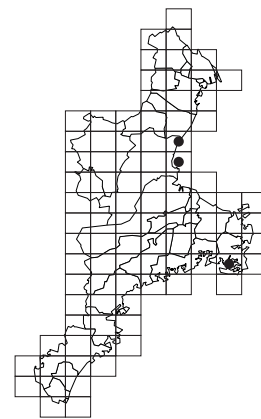
**分布：** 国内では紀伊半島沿岸、大阪湾、瀬戸内海、有明海。県内では鈴鹿市から津市にかけての伊勢湾沿岸と英虞湾で確認されている。

**現況・減少要因：** 河川改修や水質悪化等による河口部の攪乱により減少傾向にある。

**保護対策：** 現存の生息地を保全し、継続した調査を行う必要がある。

**特記事項：** 海岸ベントスのレッドデータブック（日本ベントス学会編，2012）では、絶滅危惧Ⅱ類にランクされている。

**文献：** 19, 48.



(縮次美穂)

### ヒメヒライソモドキ

十脚目モクズガニ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

*Ptychognathus capillidigitatus* Takeda, 1984

旧県：

**選定理由：** 本県が分布の東限である。熊野灘沿岸の転石地に分布するが、本種よりも上流域に生息する同属のタイワンヒライソモドキよりも生息地が限られている。

**種の概要：** 河口域の転石潮間帯の下部周辺に生息する。甲は平坦で、甲域は分画されない。側縁には切り込みが二つあり直線的で後方に向かい弱く狭まる。雄の鋏脚には不動指の外面に長い軟毛の房がある。眼柄と眼窩はやや長い。甲幅10 mm。

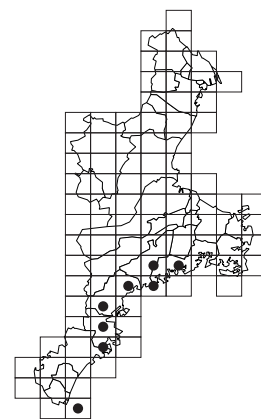
**分布：** 国内では紀伊半島以南から沖縄諸島。県内では南伊勢町から熊野市にかけての熊野灘沿岸で記録される。

**現況・減少要因：** 河川改修による生息地の消失、土砂災害による生息地の環境悪化により減少傾向にある。

**保護対策：** 現存の生息地を保全し、継続した調査を行う必要がある。

**特記事項：** 海岸ベントスのレッドデータブック（日本ベントス学会編，2012）では、準絶滅危惧種にランクされている。

**文献：** 19, 29.



(縮次美穂)

### トリウミアカイソモドキ

十脚目モクズガニ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

*Sestrostoma toriumii* (Takeda, 1974)

旧県：

**選定理由：** 本種の生息する砂泥質干潟は減少傾向にある。

**種の概要：** 砂泥質干潟に生息するアナジャコ科及びスナモグリ科の甲殻類の巣穴内に共生する。甲羅は平滑で丸みを帯びた台形を成し、雌が雄より大きくなる。甲幅9 mm。

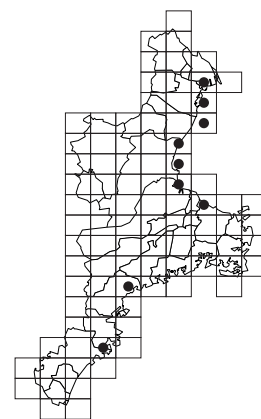
**分布：** 国内では青森県大湊湾から八重山諸島西表島。県内では伊勢湾と熊野灘沿岸の砂泥質干潟で確認されている。

**現況・減少要因：** 分布域は広いが多産地は限られており、本種の宿主が生息する砂泥質干潟は、埋立等で減少している。

**保護対策：** 現存の生息地を保全し、継続した調査を行う必要がある。

**特記事項：** 海岸ベントスのレッドデータブック（日本ベントス学会編，2012）では、準絶滅危惧種にランクされている。

**文献：** 4, 19, 27.



(縮次美穂)



哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類

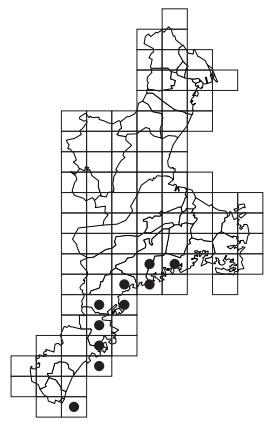
その他動物  
EX  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

**カワスナガニ** 十脚目ムツハアリアケガニ科  
*Deiratonotus japonicus* (Sakai, 1934)

三重県：準絶滅危惧 (NT)  
旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：NT

**選定理由：** 確認される個体数は極めて少なく、健全な個体群が維持されているのは5地点以下である。環境が優良な転石地の指標種となりえる。  
**種の概要：** 甲はわずかに横に長い丸みのある六角形で、前側縁に切り込みが二つある。甲面は細かい顆粒で密に覆われていて、わずかに起伏がある。歩脚は比較的短く軟毛が生える。甲幅11 mm。  
**分布：** 日本固有種で、房総半島以南の清浄な河川の汽水域上流部の転石下に生息する。県内では南伊勢町から熊野市にかけての熊野灘沿岸で記録される。  
**現況・減少要因：** 河川改修による生息地の破壊、土砂災害による環境悪化は顕著であるが、特に環境に変化がない生息地でも減少がみられ要因は不明である。  
**保護対策：** 現存の生息地の保全と、継続した調査が必要である。成長段階により選好する礫質が変化するので、各成長段階に対応した環境を保全することが重要である。  
**特記事項：** 海岸ベントスのレッドデータブック（日本ベントス学会編，2012）では、準絶滅危惧種にランクされている。  
**文献：** 6. 19. 30. 37.



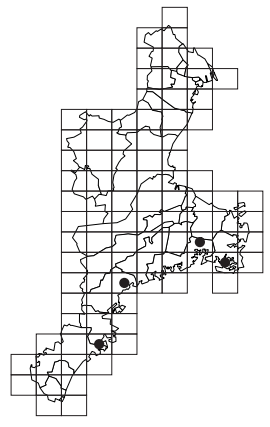
(縮次美穂)

**チゴイワガニ** 十脚目オサガニ科  
*Ilyograpsus nodulosus* (Sakai, 1983)

三重県：準絶滅危惧 (NT)  
旧県：—

環境省：—

**選定理由：** 既知の生息地点数は5以下であり、生息地面積は10 km<sup>2</sup>以下である。いずれの地点においても生息密度は小さい。  
**種の概要：** 甲幅は5 mm程度の小型種である。甲表面には凹凸がみられ、前側縁は4歯からなる。水流の小さな浅い内湾や干潟に形成される窪地等に生息する。  
**分布：** 紀伊半島から沖縄諸島、県内では南伊勢町、志摩市、紀北町、尾鷲市に分布する。  
**現況・減少要因：** 県内の限られた河口干潟で生息が確認されているが、いずれの生息地でも生息密度は極めて小さい。また、小型種であり表泥に浅く埋入していることが多いため、生息を確認することが容易ではない。県内における本種の生息状況については不明な点が多く、海岸開発等による干潟の消失や底質環境の変化が本種の個体数減少につながる可能性がある。  
**保護対策：** 人為的な環境改変を控え、本種の生息地となる内湾の浅場や河口干潟を保全する必要がある。  
**文献：** 47.



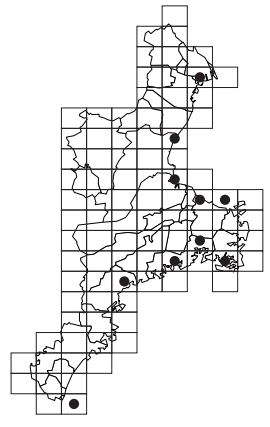
(上野淳一)

**オサガニ** 十脚目オサガニ科  
*Macrophthalmus abbreviatus* (Manning & Holthuis, 1981)

三重県：準絶滅危惧 (NT)  
旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

**選定理由：** 既知の生息地点数は10以下で、生息地面積は40 km<sup>2</sup>以下である。  
**種の概要：** 甲は長方形で甲長16.5 mm、甲幅35 mmほど。側縁部に軟毛が密生する。ヤマトオサガニに似るが、甲幅が甲長の2倍以上あり、甲、はさみ脚ともに赤みを帯びる。はさみ脚は掌節が非常に長く、顆粒列を生ずる。不動指は掌節に対し直角に湾曲する。砂泥中の有機物をすくい食う。  
**分布：** 国内では東京湾から九州に分布。県内では桑名市から鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市沿岸および南伊勢町、志摩市、紀北町、紀宝町で生息が確認されている。  
**現況・減少要因：** 三重県レッドデータブック2005以降の調査で新たな生息地が確認されたが、近縁種のヤマトオサガニに比べて生息個体数は明らかに少ない。人為的な環境改変による水質の悪化や底質の変化などにより生息地が奪われ、個体数が減少していると考えられる。  
**保護対策：** 泥浜干潟に分布するヤマトオサガニに比べ、海岸に近い砂泥質の干潟に分布するため、その環境の保全が必要である。  
**文献：** 5. 8. 14. 18. 34. 37. 39. 40. 42. 43. 44.



(上野淳一)

哺乳類	<b>ヤマトヌマエビ</b> <i>Caridina japonica</i> De Man, 1982	有尾目ヌマエビ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
鳥類	鑑賞捕獲の影響を受ける可能性があると考えられるが、生息に関する情報が不足している。			
爬虫類	(半田由佳理)			
両生類	<b>ヒメヌマエビ</b> <i>Caridina serratirostris</i> De Man, 1982	有尾目ヌマエビ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
汽水・淡水魚類	津市から御浜町までの記録があるが、未調査地域もあり今後も詳細な調査が必要である。			
昆虫類	(半田由佳理)			
クモ類	<b>トゲナシヌマエビ</b> <i>Caridina typus</i> H. Milne Edwards, 1837	有尾目ヌマエビ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
貝類	松阪市から御浜町までの記録がある。しかし、近年における生息情報が少なく今後も調査が必要である。			
甲殻類	(半田由佳理)			
その他動物	<b>ミナミヌマエビ</b> <i>Neocaridina denticulata</i> (De Haan, 1849)	有尾目ヌマエビ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
EW	伊賀市から鳥羽市までの記録があるが、今後はその他の地域において詳細な調査が必要とされる。			
EW	(半田由佳理)			
CR	<b>ヒラテテナガエビ</b> <i>Macrobrachium japonicum</i> (De Haan, 1849)	有尾目テナガエビ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
EN	鈴鹿市から御浜町までの記録があるが、今後も詳細な調査が必要である。			
VU	(半田由佳理)			
NT	<b>ウチノミカニダマシ</b> <i>Polyonyx utinomii</i> Miyake, 1943	十脚目カニダマシ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
DD	ツバサゴカイの棲管内に共生する全国的にも記録の少ない種である。県内では英虞湾で記録されており、登茂山での共生率は90%にのぼる。(文献：4. 24.)			
	(縮次美穂)			
	<b>ムツアシガニ</b> <i>Hexapinus latipes</i> (De Haan, 1835)	十脚目ムツアシガニ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
	全国的にも分布が限られている種である。県内では安乗、南伊勢町、神前湾、紀北町。近年では大王町登茂山でも記録される。2014年に記載された <i>H. simplex</i> と混同されている可能性がある。(文献：4. 37.)			
	(縮次美穂)			
	<b>スネナガイソガニ</b> <i>Hemigrapsus longitarsis</i> (Miers, 1879)	十脚目モクズガニ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
	桃取、答志、菅島、的矢湾、紀北町で記録がある。近年では松阪市松名瀬町の藻場で確認されている。(文献：37.)			
	(縮次美穂)			
	<b>ムツハアリアケガニ</b> <i>Camptandrium sexdentatum</i> Stimpson, 1858	十脚目ムツハアリアケガニ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
	低潮帯の軟泥質干潟に生息する小型種である。近年、松阪市、伊勢市、志摩市、紀北町で確認されている。(文献：4. 27.)			
	(縮次美穂)			

<b>アリアケモドキ</b> <i>Deiratonotus cristatus</i> (De Man, 1895)	十脚目ムツハアリアケガニ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：絶滅危惧II類 (VU)	環境省：—
----------------------------------------------------------------	---------------	----------------------------------	-------

近縁種クマノエミオスジガニと混同されていた可能性があり、近年、本種の生息状況に関する情報は少ない。(文献：1. 7. 11. 12. 14. 15. 16. 21. 22. 31. 32. 34. 35. 39. 40. 42. 44. 49.) (上野淳一)

<b>ミナミスナガニ</b> <i>Ocypode cordimana</i> (Latreille, 1818)	十脚目スナガニ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
--------------------------------------------------------------	----------	-------------------------------	-------

県南部の限られた海浜域で確認されたが、数は非常に少なく、分布に関して不明な点が多い。(文献：3. 37. 43.) (上野淳一)

## 文 献

- 千葉克彦・山内克典・伊東祐朔. 2010. カニ類は河口堰によってどんな影響を受けたか. 長良川下流域生物相調査報告書. pp. 76-86. 長良川下流域生物相調査団, 岐阜.
- 半田俊彦・岡 由佳里. 2008. 志摩半島におけるシオマネキ類の生息状況. 三重の生きものだより, 39: 2-5.
- 橋本裕子・上野淳一・上野早苗. 2000. 宮川河口の砂州の短尾類の種類と分布. 平成12年度宮川流域ルネッサンス事業NPO委託調査報告書.
- 飯島明子(編). 2007. 第7回自然環境保全基礎調査. 浅海域生態系調査(干潟調査)業務報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田, 99 pp.
- 逸見泰久. 2001. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック . 福岡県環境部自然環境課: 430 pp.
- 木邑聡美・野元彰人・岸野 底. 2009. 三重県赤羽川河口域で採集されたカワスナガニ(ムツハアリアケガニ科). 南紀生物, 51(1): 33-34.
- 岸野底・木邑聡美・唐澤恒夫・國里美樹・酒野光世・野元彰人・和田恵次. 2010. 汽水性希少カニ類クマノエミオスジガニ *Deiratonotus kaoriae* とアリアケモドキ *D. cristatus* (ムツハアリアケガニ科) の三重県櫛田川河口域における出現状況. 日本ベントス学会誌, 65: 6-9.
- 国土交通省中部地方整備局 水資源機構中部支社. 2010. 平成22年度第1回中部地方ダム等管理フォローアップ委員会長良川河口堰定期報告書【概要版】. pp. 96.
- 松本幸雄. 1984. 三重のオオミガイ. 三重動物学会会報, 7: 25-27.
- 三重県立松阪高等学校生物部. 1975. スナガニ科における耐淡水性について. 三重県立松阪高等学校生物部報, pp. 47-55.
- 三重県生物調査委員会. 1951. 三重県生物目録. 352 pp.
- 三重県その自然と動物編集委員会編集. 1986. 三重県 その自然と動物. 三重県良書出版会, 津, 529 pp.
- 宮本 泉. 1973. ウモレベンケイガニの後期発生. 三重県立松阪高等学校生物部報. pp. 48-51.
- 森井英行・中谷昌文・四方広巳・行岡清博. 1974. 三重県産のカニ. 松阪高校生物部報(孔版). pp. 33-43.
- 村田 毅. 1976. カニ類の河口における分布. 三重県立松阪高等学校生物部報. pp. 43-50.
- 村田 毅・長野容子・山本晃道・多賀麻美子・山本いづみ・山上温子. 1976. コメツキガニ科1種とスナガニ科2種の後期発生について. 松阪高校生物部報(孔版). pp. 37-51.
- 中野 環. 2001. 雲出川高潮堤防工事に伴うオオミガイ *Ellobium chinense* 生息地の破壊. 三重自然誌, 7: 103-109.
- 中野 環. 2008. 第8節 鈴鹿市の甲殻類. 鈴鹿市の自然 鈴鹿市自然環境調査報告書 (鈴鹿市環境部環境政策課編), pp. 428-431. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
- 日本ベントス学会編. 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 秦野. 285 pp.
- 野元彰人・岸野 底・木邑聡美. 2008. 既産地以外で初めて記録された汽水性希少カニ類クマノエミオスジガニ(ムツハアリアケガニ科). 南紀生物, 50: 98-102.
- 大西 修・竹内 隆. 1971. 中南勢にみられる蟹類の分布. 松阪高校生物部報(孔版). pp. 8-20.
- 佐波征機. 1971. 中南勢地方の干潟に棲息する蟹類について. 三重生物, 21: 15-19.
- 佐波征機. 1972. ウモレベンケイガニ *Cilstocoeloma merguensis* DE HAANの後期発生について. 三重生物, 22: 25-29.
- 佐波征機. 富田靖男. 1984. 伊勢湾および熊野灘北中部海域の異尾類相. 三重県立博物館研究報告自然科学, (6): 1-38.

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
汽水・淡水魚類  
昆虫類  
クモ類  
貝類  
甲殻類  
その他動物  
EW  
EW  
CR  
EN  
VU  
NT  
DD

25. 締次美穂. 2006. 四日市におけるハクセンシオマネキの記録. 自然誌だより, 67: 2-3.
26. 締次美穂. 2007. 田中川干潟のハクセンシオマネキの記録. 自然誌だより, 71: 2-5.
27. 締次美穂. 2010. 三重県のトリウミアカイソモドキについて. 自然誌だより, 86: 4-5.
28. 締次美穂. 2013. 三重県におけるマメアカイソガニの記録. 南紀生物, 55(2): 159-162.
29. 締次美穂. 2014. 三重県におけるカワスナガニの記録. 南紀生物, 56(1): 53-55.
30. 締次美穂. 2014. 三重県におけるタイワンヒライソモドキとヒメヒライソモドキの記録. 南紀生物, 56(1): 26-29.
31. 田中信一. 1953. 南伊勢の蟹. 三重生物, 3: 13-19.
32. 田中信一. 1955. 三重県に産する蟹 その2. 三重生物, 6: 2-7.
33. 田中信一. 1960. 紀伊半島の東と西の“カニ”を比較する. 三重生物, 10: 76-80.
34. 田中信一. 1962. 三重県産カニ類総目録. 三重生物, 12: 1-35.
35. 田中信一. 1968. 三河一色における底引網漁業によるカニ. 三重生物, 18: 17-25.
36. 田中信一. 1973. 三重県産カニ総目録 (その4). 三重生物, 23: 83-94.
37. 短尾類分布調査研究会. 1983. 伊勢湾および熊野灘北中部海域の短尾類相. 三重県立博物館研究報告自然科学, (5): 1-78.
38. 富田靖男. 1975. カニ類. 三重県の歴史と風土, pp. 287-290. 創土社, 東京.
39. 富田靖雄. 1977. 5 松阪の動物 9 甲殻類. 松阪市史第一巻史料編自然, pp. 596-613. 松阪市, 松阪.
40. 富田靖雄. 2003. 第三章 三雲町の動物 第八節 その他の無脊椎動物. 三雲町史第一巻通史編, pp. 104-110. 三雲町, 三雲.
41. 富田靖男・田中信一. 1968. 紀伊長島周辺のカニ類. 紀伊長島周辺海洋生物調査報告 熊野灘沿岸海洋生物調査報告書. 3: 22-28.
42. 上野淳一. 2001. 宮川親水公園護岸工事. 自然誌だより, 49: 4-5.
43. 上野淳一. 2005. 県内の沿岸域における南方系カニ類の北上について. 自然誌だより, 65: 3-4.
44. 上野淳一. 2006. 伊勢市外城田川河口護岸工事について. 自然誌だより, 67: 4-5.
45. 上野淳一. 2007. 三重県未記録種ヒメヤマトオサガニ *Macrophthalmus banzai* ならびに熊野灘沿岸河口域に生息するカニ類数種. 三重動物学会会報, 30: 4-5.
46. 上野淳一. 2009. ヒメヤマトオサガニ *Macrophthalmus banzai* の分布と好適環境条件. 三重動物学会会報, 32: 4-10.
47. 上野淳一. 2010. 南伊勢町内湾干潟における希少カニ類の確認. 自然誌だより, 84: 4.
48. 和田太一. 2008. 南港野鳥園で見つかったヒナユキスズメとヒメケフサイソガニ. Nature Study, 54(6): 6-7.
49. 山内克典・足立 孝・伊藤祐朔・粕谷志郎・籠橋数浩・千葉克彦. 1995. 長良川における汽水性生物の分布と塩分遡上. プロ・ナトゥーラ・ファンダ第3期助成成果報告書. pp. 79-85.